



Nagasaki Institute of Applied Science

2008
JANUARY

学報

No. 90

編集・発行：入試広報課

建学の精神

「自律自彊」
「実学実践」
「創意創新」
「宇内和親」



写真：長崎新聞提供



特集

- ・年頭所感
- ・高校生の報告集
- ・就職戦線異状あり?!

長崎総合科学大学

URL <http://nias.jp/>

生き残りをかけて

理事長 行徳 威夫



あけましておめでとつございます。皆様健やかに新年を迎えられた事とお慶び申し上げます。

昨年の世界的な話題は「バレル100ドルにせまる原油の高騰と米国の「サブプライム」の問題でしょう。当初、米国一国内の問題と思われたサブプライム問題は日本、欧州他世界経済に打撃を与え、今年は世界経済の冷え込みとインフレが懸念されています。一方日本では、日本漢字能力検定協会が平成19年を象徴する漢字に「偽」を選びました。食品の偽装問題が数多く噴出したのは異常とも言えるものでした。原因は顧客を無視した経営のあり方です。

さて、我々私立大学を取り巻く環境はますます厳しくなっております。18歳人口減少の影響が大きく、定員割れの大学が約40%、実質赤字大学が約27%となっております。年々悪化傾向にあります。文部科学省は高等教育政策において競争原理を導入し、競争力のない私立大学を退場させる政策を採っています。

このような厳しい時代を乗り越えるには全学で危機意識を共有し、全員参加型の運営で教職員の意識改革、事務部門の改革、教学の改革等々を着実に実施し、財政の健全化、教育力の強化を図らなければなりません。

そのため昨年度から「大学のビジョン」、「大学の中期運営方針」、各部署の「2007年度運営方針」を策定し、目標管理を導入し業務を推進してきました。2007年6月には各部署の業

務計画（運営方針）のヒアリングを開催し、大学の運営方針と各部署の活動とのすり合わせ調整を行いました。それにより、各部署で抱えている課題が明確になったと考えております。2007年10月には業務推進計画の中間実績報告会を開催し、各部署の計画とその進捗状況を理事者と各部署とで確認しました。この中間実績報告等から昨年度の反省点、重要課題を述べたいと思います。これはまた、2008年度の重要施策となるものです。

1 質の高い「教育力」こそが生き残りを左右する

「学園のビジョン」である学生第一主義の活力ある学園づくりの2本柱の一つである「教育力の強化」は、本学園が持続ある成長をするために必須の条件です。それでは大学の教育力とは何でしょうか。それは、環境の変化に対応できる人材を育成する能力であり、単なる各教員の教育力だけでなく、社会のニーズに合ったカリキュラムづくりも対応していなければ真の教育力とはなりません。教員の質の向上が急務です。卒業生の就職先、社会に出てからの活躍ぶりは大学選択にあたって世情一般強い動機づけになっているものなので今後とも期待したいものです。

本学では2005年度より、学生による授業評価を実施しています。2007年度からは各学部学科の目標管理の重要なテーマとして「授業評価

結果のワースト3項目の改善」を各教員が実施して教員の質の向上と魅力ある講義づくりをしてきました。

反省点としては改善点の提出期限が守られなかった点、および提出フォームがまちまちであった点です。2008年度は、改善フォームを統一化し、スピードある改善、質の向上につなげるため提出締切期限を順守したいと思います。

また、各教員の4期の改善のトレンドを作成し、改善策が有効に効いているかを更に検討する予定です。2007年11月教員に対してFD講習会を開催しました。この講習会は、今後定期的に開催する予定です。

2 事務職員の意識改革

事務職については、職員力の強化を図るべく「企画・管理部門の強化」と題し、今までの指示待ち職員から課題発掘、解決提案型の戦略的職員への意識改革を推進しています。

事務部署の目標管理では、目標が抽象的で数値目標がない点が一番の問題点です。

改善、改革の第一歩は現状の把握を数値で行い、客観的に現状を「見える化」することです。「見える化」すればおのずと問題点が浮き上がってきて、改善目標も容易に立てられるはずです。

2008年度は事務職員全員の研修会を実施し、事務部署のスリム化、シンプル化を積極的に進めてまいります。これからの大学経営は「教育と経営

の分離」が必要で、教員は教育に専念し学生の学力の向上を図る、一方事務職員は戦略的な経営意思決定を支える「企画・管理のプロフェッショナル集団」へと変革することが求められています。

2007年11月、事務職員に対してSD研修会を開催しました。SD研修会は今後定期的に開催するように計画しています。

3 新しい時代のニーズに応えた魅力ある学部づくり

電気電子工学科に「医療電子コース」を2007年4月新設しました。医療機器と医療技術はますます高度化し、これらの医療機器を取り扱う「臨床工学技士」の要員が不足しています。現在長崎県では充足率が約20%とわかっていません。まさしく、社会のニーズに応えた対応と言えるでしょう。今年度は「医療電子コース」の設備と教育の更なる充実強化を図り、地域に貢献してまいりたいと思います。

4 カリキュラム改革による共通・言語・基礎教育の再編

学生の学習力に欠かせないのが、基礎力です。本学では共通、言語、基礎教育の3センターは工学部、一方で人間環境学部、情報学部はそれとは別個の独自の教育システムで基礎的教育を行っています。2007年度の目標はこの3センターの位置づけと見直し

を行い、全学的なカリキュラム改革を行う予定でしたが、その進捗が捗々しくありません。学長を中心に早急に計画を立案、実行するようにしたいと思います。

5 認証評価受審に向けた取り組み

2002年の学校教育法改正に伴い、2004年度以降が国の大学は、文部科学大臣の認証を受けた評価機関による評価を7年以内の周期で受けることが義務づけられました（認証評価制度）。大学評価を必要とする背景は、大学の運営に競争原理を導入したこと

に起因しています。すなわち、研究成果を求めることだけに偏りすぎていないか、教育や人材育成を疎かにしていないか、社会のニーズにマッチしたカリキュラムが用意されているか、自由競争原理における学生の保護策は考えられているか、教育研究の国際通用力はあるか、ということ等が背景にあります。このため、大学は、社会に対して教育の質を保証すること、教育研究水準向上のための改善を継続的に実施することが求められています。「改革なくして成長なし」が基本の考え方です。大学の組織（教員組織、事務組織）、教育課程、施設および設備、財務等に関し競争に勝ち抜く「質と改善」がされているかを大学自身が自律的に実施することが求められているのです。

昨年から実施している各部署の業務

推進計画の立案とその進捗管理をPDCAサイクルマネジメント手法で行うことにより認証評価で基準適合の判定が得られるよう、全員参加型の大学運営を推進してまいります。

【授業のPDCAサイクル】

授業の計画（Plan）はシラバスに明記されます。15コマの授業はシラバスに則して実行（Do）されなければなりません。

そして実行された授業は学生または他の教員によって授業評価（check）されます。授業評価結果のワースト3項目について改善提案を作成、次期の授業に反映（Action）させます。

授業評価結果のワースト3項目について改善提案を作成、次期の授業に反映（Action）させます。

6 地域との連携に向けた取り組み

近年、地方大学のあり方として「地域との共生」とな地域再生への貢献」と言ったことが注目されています。

昨年、本法人としては網場の地に校舎を移して初めて、東長崎地区自治会連合会の役員会に出席する機会を得て、「地域との共生」と本学としての「地域への貢献のあり方」等について訴え

るとともに、オープンキャンパスおよび学園祭へ招待し参加して頂くことで、「地域との協力関係」の第一歩を踏み出しました。

時を同じくして、高校サッカー界のトップリーダーである小嶺忠敏先生を

本学の特任教授としてお迎えすることになり、東長崎地区のみならず長崎の全地域が本学と附属高校の動向に注目し始めています。

今年、「地域との共生」の一環として、本法人と東長崎地区自治会連合会の連携を一層強化していくとともに、東長崎地区住民が共に同じ感動を受けることができるように大学および附属高校のサッカー活動を強化したいと考えております。

もちろん、「地域との共生」と「地域再生への貢献」の一環として、地域の中小企業を含む産学官連携の大学としての頭脳的な役割を忘れてはいけません。地道ながらも長崎における唯一の理工系私立大学としての役割は担当部署の強化を含め着実に果たしてまいります。

7 産学官連携による外部資金の導入

知的財産ポリシーを制定し、産学官連携活動による発明、開発等の専門分野の学術研究に努め、知的財産の管理を徹底して、社会貢献を促進し、同時に外部資金の確保にあたる。

最後に、2008年も更に厳しい経営状況が予想されます。全員でこの危機意識を共有し、皆さんの叡智を結集し難局に対処すれば必ず活路を見いだせると確信しております。皆様のご健康と益々のご活躍をお祈り申し上げます。

これまで高校と大学との関係は、入学に関係する流れの中だけのものであったが、大学への進学が高まる中で高校と大学との教育的な連携が広がりを見せている。

本学では、高校での説明会や高校生セミナー、オープンキャンパスなどを通じて、大学における教育内容や学科の紹介を行うことが、生徒の能力・適性等に応じた進路選択の機会と位置づけてきた。

さらに「大学の学習内容を理解」「進路選択」を目的とした職場訪問や体験学習の受け入れによって、「学ぶことの楽しさ、学習意欲の向上につながる」ともと考えている。

本学の取り組みや、これらを通じて高校生が感じたNiASを生徒の報告書から紹介する。

個人が特定できないように学校名、生徒氏名は省く。
全文を載せることはできないため、関連する文書を抜粋して紹介する。

高校生セミナー

本学の教員が高校へ出向いて講義を行う、いわゆる出前講義。
3学部7学科で27人の教員がエントリース、テーマ、講義内容を高校へ紹介している。

高校からの要請で講義内容を変更して行うこともある。



高校へ出向き、「船舶工学と夢」と題して大学における教育・研究内容を紹介しながら講義

『水質調査の意義とその測定方法について』の感想

昔の環境に無関心だった時のつげが今戻ってきているのだと思います。だから何十年後のためにも環境について真剣に考えていかなければならないと思いました。

課題研究と同じようなテーマで、今までインターネットが唯一の情報源でしたが、それ以上の内容の話が聞けて本当にうれしかったです。

『脳をだます』の感想

バーチャルの世界を楽しみました。不思議な感覚で、人間はともおもしろいなあと思いました。CGのことや、立体映像の仕組みを教えてもらい、どういふ風に作るかとも気になっていたのでよかったです。

先生の話し方もとてもユニークで聞いていておもしろいなと思った。もっと時間を長くって聞いてみたいなと思った。

大学に対しての興味がとても大きくなった気がする。これからは自分の進路実現に向けて、がんばっていきようにしたいと思う。

体験学習

高校の要請により本学でプログラムを用意。

「パソコンを使った小型船舶のデザイン体験」
「マイクロカーの分解・組立」

「LEGOブロックで6足歩行昆虫ロボットを作ろう」
「建築の形態・空間・力」
「体操アニメーションの作成実習」

「水質分析体験」
「電子工作」
「Web・CGの制作」などを実施した。



マイクロカーのエンジンを分解、組み立て作業を行いながら仕組みを学ぶ

【高校生の感想】

今まで「CGデザイン」と聞いてもあやふやでなんとなくしかわからなかった職業の内容がはつきり理解することができました。私は将来デザイン系の職業に就きたいと考えていて、大学もデザインを扱っ

ている大学へ進みたいと思っています。そのため、今回のような機会に、大学のようすを少しだけ知ることができ、将来の夢の形が前よりすっきりしたように感じました。

総科大に医療電子コースがあると知りませんでした。大学の中に集中医療室や手術室があつて、設備のすごさに驚きました。

昼食は学食で食べさせてもらえて、学食の雰囲気味わうことができました。

機械工学では、マイクロカーを運転させていただき、とても楽しい講義でした。運転は難しかったですが、自分が作った車が動くすばらしさを教えてもらいました。実際にエンジンを分解してもらったりして、とても勉強になりました。

大学って、いろいろな先生やいろいろな学生がいるということ。自分が研究したいことに集中できる環境、設備が整っていて、研究をしてい



医療電子工学コースの実習室と設備の説明を受ける

る学生を見ると、とても楽しそうだなと感じました。自分も将来は何かモノ作りをするような仕事に就きたいと考えていたので、その気持ちも少し強くなった気がします。

どの講座でも話の内容は難しかったけど、先生や学生が僕たちにもわかりやすく話してくださったので、理解が深まったと思います。

大学とは何なのか？決して専門知識だけを詰め込む場ではなく、学生と教授が同じ目線に立つて追究していく場でもあることが感じられました。このような協調のある、活気豊かなこの大学で研修を受けられて良かったです。



パソコンを使って小型船舶のデザインを行う

今までそんなに自分の家や他の建物について考えたことがなかったんだと驚きました。ほとんどの人間は建物で始まり、建物で終わるのだから、建築において最も大切なもの、一つは空間なんだという教授の意見は奥が深いなあと感じました。

大学生の人がとても大人に見えてびっくりしました。



色紙を使って、形や空間、力を学ぶ

そして、本当に勉強がしたいんだなあと思いました。そんな風に自分もなりたいたいです。

今まであまり興味がなかった工業系の大学へ初めて行ってみてモノを作るといことがすごく楽しいということが分かりました。

自分の知っている理科の世界がものすごく狭いということを知らされました。それと同時にその広い理科の世界をもっと学びたいと理科に対する興味・関心がいよいよ深まったと思います。

わからない言葉や専門用語に戸惑ったりしました。けれどそれ以上に初めて見る機械・道具、実験・薬品に対する驚きや好奇心、おもしろさの方が大きかったです。なんでこんな風になるんだろ、すごいなあと思うことがたくさんありました。わからないことがあって質問すると丁寧に教えて下さって、とても

嬉しかったです。

大学は、自分のやる気だけで学習がかわってくるので、自分が本当にしたいことを見つけてあとで後悔しないようにしたい。そのためにも今回の研修はこれからの進路を考えていく上で役に立ったと思う。

これからも「学ぶ」ことに楽しさを見いだし、自ら進んで学習する姿勢を作っていきたいです。まだ「大学受験」という実感がない中で研修だったので、学ぶだけでなく、大学について考える機会になりました。



コンピュータを使って簡単なCG製作を学ぶ

いつも気軽に先生に質問し、意見を出し合っている姿を見ると先生と学生が二人三脚で研究を進めているのがわかった。

大学というもののイメージは、もっと堅いものだと思っていたのに、先生方は学生自身に問題解決の糸口を見つけてさせるような形で指導しており、とても楽しい所だとわかりました。



水質分析の実験用の硫化第一鉄の分量を計る

【引率教員の感想】

生徒も貴重な経験をとおして視野が広がったことを大変喜んでおります。今後さらに近い将来社会人として責任ある十分な活動ができるよう、学習にも一層の力が入るものと思っております。

生徒たちも情報や機械、建築や環境などの各種の実験を通して科学的興味・関心を高めてくれたようです。この体験を今後の学校生活の中で活かしていくものと確信しております。

帰りのバスの中においても、生徒たちの表情には取り組んだ実験・実習による充実感が見えていました。

講義・実験実習の内容はもとより、研究室の雰囲気なども味わうことができたようで、貴重な体験ができたのではないかと思っております。

生徒達は、初めてのキャンパス見学を通して、勉学の内容や意義を理解し、将来の進路選択の一助になったものと確信いたしております。

大学で学ぶ

Part 2

前号に引き続き、「大学で学ぶ」をテーマに在学生の声を紹介する。

本学で学ぶ学生は、何を思い、何を感じ、将来をどのように考えているのか。そして21世紀を担う若者に対して私たち大学は何ができるのか。しなければならぬのか。

これは在学生の中から無作為に選んだ学生にアンケートを行い、書いてもらった内容です。その内、今回3名の長崎県外からの入学者を紹介する。
「大学で学ぶ」ことを見つめる機会にしたい。



人間環境学部
環境文化学科1年
伊藤 舞さん
[函嶺白百合学園高校 神奈川]

大学へ進学した理由

環境について、いろいろな面から学びたかったから。
理系への進学をあきらめていた時、塾の先生が文理融合型の本学を紹介してくれた。
今、夢中になっていること
一人暮らしの生活。
「ISOの家」や「ピオトブ研究会」の環境活動や「キャリアネットカフェ」のサークル活動もがんばっています。
一言
環境問題に関心がある人にとって、環境文化学科は勉強に最適な場所だと感じています。



人間環境学部
環境文化学科1年
伊藤 和紀君
[静岡聖光学院高校 静岡]

大学へ進学した理由

環境について広く、深く学びたかったから。
妹(伊藤 舞さん)と一緒にオープンキャンパスに来ました。在学生が楽しそうにしているのが印象に残りました。
今、毎日が楽しいです。
今、夢中になっていること
「ISOの家」に入りがんばっています。
一言
「ISOの家」は楽しい所です。
本学で「地球を」「人を」救いましょう。
そして人生を楽しみましょう。



工学部
機械工学科4年
齋藤 幸喜君
[北越高校 新潟]

大学へ進学した理由

モノ作りの道に進みたかったから。
この3年間で随分身につけてきました。
「製図」実習でスチューデント・アシスタントとして1年生の授業をサポートしています。
今、夢中になっていること
日々の忙しい中で、必死に自分の時間をやること。
製造系の会社より就職内定をいただきました。今は卒業研究、アルバイトに忙しい日々を送っています。
一言
「何とかなる」と前向きな気持ちで臨んで欲しい。

企業の採用動向と大学のキャリア形成支援の現在

全国より80社が集結！
長崎総合科学大学合同企業面談会



熱気に包まれた長崎総合科学大学合同企業面談会

昨年末の12月19日、長崎市のホテルニュー長崎において、長崎総合科学大学主催の合同企業面談会が開催された。これは、本学学生の就職支援を目的に毎年開

催しているもので今回は主に平成21年3月卒業見込者（現3年生）が対象。当日は、全国から企業80社が参加（今回は九州圏外企業が対象）。上場企業を中心とした大手企業や中堅企業、業種や地域もバラエティに富んだ企業がズラリと並び、学生も3年生を中心におよそ300名が出席し、街ではクリスマスモードが漂う中、会場内は早くも再来年の就職・採用に向けて熱気に包まれた。本学では同様



学生と企業との面談の様子



今年も就職活動がよいよいよ本格化



12月に福岡市のYahoo! JAPANドームで開催された「マイナビ就職EXPO」(毎日コミュニケーションズ主催)九州各地から25,000名の学生が参加。本学からも約80名が参加し就職活動への本格的なスタートをきった。

の面談会を2回に分け開催し、2月13日(水)には、九州圏内の企業を招き実施するが、ここ数年、学生の就職戦線は異状ありともいえる急激な変化を見せている。そうしたなか、企業の採用動向と学生の就職活動、大学のキャリア形成支援の現在を追った。

就職戦線異状あり?! 企業の採用動向の変化

今回の合同企業面談会の主対象となつた大学3年生が高校生だった数年前までは、新卒採用を手控える企業が多く、大學生の就職は氷河期と言われた時代であった。それが特にこの3年で採用市場は「売り手市場」の色合いが急激に強まってきた。景気的好況感や企業の団塊世代の大量退職(いわゆる2007年問題)の影響、将来の労働力人口減少の懸念などを受けて、企業の採用意欲は急速に高まり、同時に大手企業を中心とした

激しい人材争奪戦が繰り広げられている。リクルートワークス研究所の推計によると、08年春の大学、大学院卒業予定者への民間企業の求人総数は93万3千人で、パブル期を上回り、求人倍率も2.4倍で、16年ぶりに2倍を超えた。

次年度の採用動向 加熱する企業の人材獲得合戦

このような「売り手市場」は学生にとつては選択肢の幅も広がり、一見楽観的に考えられがちだが、状況は決して甘いものではない。各企業は採用予定数に満たなくても、質重視の採用を基本とした姿勢は崩しておらず、いわゆる「厳選採用」は今後も継続されることが予測される。本学の正規カリキュラムでの就職支援プログラム「将来計画フォーラム」で講演講師を担当する就職情報大手の毎日コミュニケーションズ九州支社就職情報事業本部企画広報部長の土山勇氏によると、来年度の就職戦線のキーワードは「中央の水面下での早期化」「採用増に隠された厳選採用」「より二極化する学生」。

特に「見かけの採用増は嘘ではないが、パブル期以降の入社組のその後の成長や増加する早期退職の傾向から、大手(人気)企業の採用ハードルは意外に高くなってきている。」という。また、同氏によ

れば、「以前からあることだが、内定の取れる学生とそうでない学生の差が激しくなっている。早期化の影響もあると思われるが、早期からの対応の出来る学生(キャリアデザインが早期から出来る学生)が有利になっている感が強く、リアルな現実を早期に理解し、自分自身を磨く学生が望まれている。」と分析する。

今回を含め本学の合同企業面談会に参加する企業の多くは、本学学生を定期的に採用していただいている企業が多く、また、本学出身の人事担当者も多数出席することから、学生にとってはリアルな就職先企業を発掘する絶好の機会となっている。大学単体で実施するこのような面談会は九州でも屈指の規模を誇り、企業側の評価も高く、毎年参加を希望する企業も増加している。

今回参加した企業側からも、「実際に企業同士の競争が激しくなり、他社との差別化に迫られている。」「学生と接する機会を増やし、優秀な学生とより多く接したい。」などの理由から、面談会を母集団確保の機会と捉え、面談では積極的に学生に働きかける企業が目立った。

参加した学生も「本格的なスタートラインに立った気持ちになり、気が引き締まる感じ。」「自分のなかで得た情報より知らないことが多くあり、業界研究の不足を感じた。」「仕事内容に関してイメージとのギャップがあり、逆に可能性の広がりを感じた。」など、面談会が学生のキャリアデザインの具現化への第一歩として定着化してきている。

対話重視と厳選採用

これまでのような採用活動ではなかなか優秀な人材を確保できないのではないのかとの危機感から、企業側は積極的に学

生へと歩み寄り、「対話重視」の採用姿勢が伺える。その象徴として、参加企業の中には、次年度の採用活動のキーワードとして「ふれあい」を挙げる企業もあった。日本能率協会の経営課題調査では、「質・量ともに期待通り、もしくはそれ以上の採用ができている」企業は4%に満たず、約4割の企業が期待通りの採用ができていないという結果もあり、さらに入社後3年以内に離職する大卒者が3割を超える現状を考えると、同時にそれは、企業側の「厳選採用」という学生の人間性やポテンシャル(将来の可能性)を対話の中から厳しく見極める姿勢に通じているとも言える。選考段階においても、エントリーシート(企業独自の応募用紙)や面接を複数回課すなど、多くの企業で、採用が早期化する一方、選考をじっくりと行う傾向が顕著化してきている。

また、加熱する採用戦線の一方で、昨年暮れから今年にかけての株価急落、円高、原油高騰、サブプライム問題の影響など日本経済の先行きも決して楽観視出来るものではなく、経済が冷え込み、景気が後退するようないことがあれば、企業の採用意欲も減退する可能性もあり、学生にとつての「売り手市場」も長続きするとは限らない不安な一面もある。

企業が求める人材と社会人基礎力

それでは、企業はどのような人材を求めているのだろうか。皆さんは社会人基礎力ということばをご存知だろうか。経済産業省では、2006年2月、社会が求める「学んだ知識を実践に活用するために必要な力」を「社会人基礎力」と名付け、社会人基礎力に関する研究会において内容を定義している。それによ

ると「社会人基礎力」は「前に踏み出す力(アクシヨン)」「一歩前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力」「考え抜く力(シンキング)」「疑問を持ち、考え抜く力」「チームで働く力(チームワーク)」「多様な人々とともに、目標に向けて協力する力」の3つの能力から構成される。その後、全国約2,000社を対象とした企業調査の結果から「求める人材像」と「社会人基礎力」との関係を調査し、回答したほぼすべての企業が、新卒社員の採用プロセスや入社後の人材育成において「社会人基礎力」を重視しているとの結果が出ている。

面談会参加企業のある人事担当者によれば、「現代において、厳しい競争を勝ち抜くには、お客様のニーズに敏感でなくてはならないと考えており、とにかく動いてお客様の声を聞く。営業も技術もその姿勢が大事である。」との意見があった。まさに前に踏み出す力が求められていると言える。

こうした能力は一見当たり前に備わっているように思われがちだが、実際の就職活動のプロセスにおいても、なかなか発揮できない学生も存在する。就職活動では、自分自身の将来を考え抜き(キャリアデザイン)、具現化するために前に踏み出す力が必要となる。今や主流となったインターネットでの企業へのエン

トリーや説明会への参加には、前に踏み出す力が必要となるし、近年増加傾向のグループディスカッションやグループワーク形式による選考試験においては考え抜く力やチームで働く力が必要となる。そして、学生は大学生活のあらゆる場面において、こうした3つの能力をどのように磨きあげてきたかが問われることになる。このことは、裏を返せば大学側が4年間の教育において、学生一人ひとりに社会人基礎力を磨く機会をいかに提供できるかに関わっているとも言える。

大学のキャリア形成支援

一部の業界においてはまた、教授推薦や学校推薦制度が根強く残っている企業があるものの、自由応募での採用や大学名不問の採用が増加する中で、学生一人ひとりの資質が今後ますます問われることとなる。本学では「技術」「情報」「環境」という21世紀社会のキーワードに対応した「工学部」「情報学部」「人間環境学部」を擁し、時代と社会の要請に応え得る人材の育成と輩出に全力で取り組んでいる。各学部・学科では、教員が学生とともに、ものづくりやフィールドワーク、各種大会やイベントへの参加・出展、地域と連携した取り組みを4年間の教育の中で積極的に推進していくことで、学生一人ひとりに社会人基礎力を身に付ける機会を提供している。その証拠に、全国でも屈指の就職内定率を誇っており(2006年度就職内定率99.5%)、上場企業や大手企業への就職も増加している。

また、本学では前述の将来計画フォーラムをはじめ、インターンシップ、各種資格取得支援、低学年生向けのキャリアガイダンスや就職活動のための準備講

座の開催、年2回の合同企業面談会の開催など、さまざまなキャリア形成支援を行っている。

2006年度(平成18年度)
就職内定率の比較

| | | |
|---------------|--------|-------|
| 長崎総合科学大学 学部全体 | | 99.5% |
| 学部別 | 工学部 | 100% |
| | 人間環境学部 | 97.7% |
| 性別 | 男子 | 100% |
| | 女子 | 97.1% |
| 長崎県内大学平均 | | 91.6% |
| 全国平均 | | 96.3% |

(注)長崎県内大学生の就職内定率は2007年4月21日長崎新聞掲載、長崎労働局発表。
全国平均の大学生の就職率は2007年5月16日日本経済新聞掲載、厚生労働省、文部科学省公表。

教育の質が問われる時代へ

キャリア教育の必要性が叫ばれ、最近ではほとんどの大学が何かしらのキャリア教育やキャリア形成支援を行っていると言っても過言ではない。突き詰めると大学の教育(講義)そのものがキャリア教育であり、今後は社会や地域に貢献できる人材の育成、グローバル社会に対応できる人材の育成に向けて、各大学において、教育の質が問われることとなる。すなわち、本学を含めた各大学の真の価値が問われることとなる。本学においては「学生第一主義の活力ある学園づくり」を学園ビジョンに掲げ、さらなる教育力の強化に努めている。

今回の取材を通じて、それこそがまさに学生一人ひとりの将来価値を高めることにつながると確信した。

本学独自の完全バックアップ体制

将来計画フォーラムでの「OB・OGと4年生内定者による業界・職種研究会」

「夢に向かってチャレンジ」

小嶺 忠敏 教授

縁がございまして長崎総合科学大学にお世話になることになりました。人間とは不思議なもので、1年前はまさかこんなこと予想だにしていなかった。これが人生の出会いという気がします。私は本当にいるんな方々と出会いました。人生は出会いであるし、そして今の私があります。

出会い

今、やはり母親の影響って大きいんだと思います。いろんなことを母から教わりました。農家の子ですから麦踏をやらせられました。「何で足踏みせんといかんよ」と母に聞いたことがあるんです。母は「1回も麦踏しない麦は、冬、寒くて雪が降ったり、霜が降りて倒れてしまい、全然収穫できない。麦踏した麦はピンッと伸びて、収穫できる」。本当にそうなんです。「人間も一緒ぞ」と幼い頃にそんな話を母が言っていました。

台風が通り過ぎた後、母が兄弟3人を呼んで、母が指差すんです。大木が三本くらいに折れているんです。その後40~50m先の竹やぶに私たちを連れて行き、「おい、竹は折れてるか」一本も折れてないんですね。竹には等間隔に節があって、要所、要所をめているから台風でも折れなかった。大木にはポツポツとしか節がなかった。「節ありて竹強し」と言う言葉を小学生の頃に覚えました。

貧乏していたから兄弟の中で私だけ高校に行かしてもらいました。何か嫌な気がして学校に行きたくなかったんですが、「人間の基礎、基盤を築く所が学校ぞ。それだけは頭にいれておけ。成績は二の次」と言われ、学校を辞めきれなかったんです。こんな幼い頃の母の一言一言が人生の基盤を築いているんです。

私が母子家庭に生まれて基盤を強くしてくれたのが中学校のバレー部の先生だと思って常に感謝しています。その先生が「おい、お前はサッカーが良かぞ。6人制のバレーボールはネットが高くなる。お前の身長では無理。負けず嫌いで気が強いからサッカーが合うかもしれん」と、たったこの一言で私のサッカー人生がスタートしました。高校、大学でも先生方にも恵まれました。そして教師になってからもいろんな出会いがありました。

夢を実現するための信念

「不可能と思われる事にチャレンジ」という気持ちを持たなければならない。人生の信念です。私は1968年に島原商業高校に着任しました。当時、サッカーの部員13名です。陸上とバレーボール部から各2人を借りて試合にでました。それが私の監督第1号でした。私が仲間に「俺は日本一のチームを作るばい」と言うとずいぶんからかわれました。ところが、ちょうど10年。1977年にインターハイで初めて優勝したんです。九州に優勝旗が関門海峡を渡った第1号です。

2003年に西日本新聞に「私の聞き、書きシリーズ」で80回連載されました。そのタイトルが「生涯チャレンジ」です。自分が不可能と思われる「夢」。特に若い人には非常に大切です。若者はこれから無限大の可能性を秘めているわけです。

もっとも夢のあることを語りましょう。夢をなくしたら人生が終わりです。じゃ、「夢」を達成するためにはどうしたらいいか。夢を実現するためには普通の人ができることをやらなければならない。これが二つ目の信念です。

三つ目は、言い訳をしない。四つ目は、夢を実現するためには、やっぱり続けることです。意外と簡単な様ですが、これが一番難しい。

最後に私の一番好きな言葉を申し上げて終わりにします。私は教育は「熱」であると考えています。物事をやる時には常に情熱がいるし、熱意を持つこと。人生は常に熱。本気でやればみんなついてくるんですよ。それが私の信念です。

11月10日オープンキャンパスにおいて講演。紙面の都合で、講演内容を省略等しています。講演内容はホームページ上で動画配信しています。ご覧下さい。

URL <http://nias.jp/opencampus/Komine.asx>

誌 上 講 義



小嶺教授の略歴

| | | | | | | | | | |
|---------------|-----|------------|------|-------|-----------------|-------|--------------|------------|---------------|
| 07年 | 07年 | 06年 | 06年 | 00年 | 97年 | 84年 | 68年 | 68年 | 45年 |
| 長崎総合科学大学学長付教授 | 同退職 | 長崎県教育委員会参与 | 定年退職 | 同校 校長 | 兼長崎県教育庁体育保健課長補佐 | 同校 教頭 | 長崎県立島原商業高校教諭 | 長崎県立国見高校教諭 | 大阪商業大学卒業 |
| | | | | | | | | | 長崎県南高来郡有家町生まれ |

NEW FACE

07年10月1日採用



①橋本 祐子
②工学部共通教育センター准教授【博士(法学)】

③読書・映画鑑賞
④法学は、私たちが社会生活を送っていく上で身につけておくことが重要な学問です。授業では、少しでもみなさんに法学を身近なものに感じてもらおうとできるような取り組みでいきたいと思っています。どうぞよろしく願います。

07年11月1日採用



①小嶺 忠敏
②学長付教授

③スポーツ観戦・ウオーキング
④暗いニュースの毎日、どうした!! 経済大国 ニッポン。戦後、教育の崩壊(家庭・地域・学校)が叫ばれて久しい。三十八年間の教職経験と四十年間のサッカー指導経験を生かして、日本の明るい未来に向けて、学生と共に全力を尽くしたい。

「環境保全と野菜づくり」



高知大学農学部教授の福元康文氏が「環境保全と野菜づくり」と題して講演。農業を取り巻く現在の背景や課題などを示したうえで、環境に優しい栽培技術として、マイクロバブルオゾン水の利用、光環境、未利用資源の活用、環境負荷を軽減した施肥方法、セラミック資材を用いた排培養液の浄化の事例や可能性などについて述べた。

12/1

「いま国際社会のなかで日本の平和とは？」



龍谷大学法科大学院教授、名古屋大学名誉教授の森英樹氏が講演。憲法学者として国際協力と平和の問題を長年にわたって研究してきた森氏は、日本国憲法の「遺暦」「遺暦憲法」に引退を迫る、改憲外掘埋め立て工事の風景今そこにある「壊憲」：新給油法問題、平和を齎かす米軍再編と日本財界要求、日独比較から見えてくる格別の懸念の憲法と平和を考える上で重要なテーマごとに解説した。

12/1

「癒しと元気を引き出すデザイン」



日本で始めて「インテリアコーディネーター」のキャリアを提唱した本学客員教授で、町田ひろ子アカデミー校長の町田ひろ子氏が「癒しと元気を引き出すデザイン」と題して講演。長崎の未来デザインについて、目指せ国際福祉都市を提唱し、デザインの果たす役割と、大学と市民の協働での実現の重要性を説いた。

10/20

「電子工学と先端医療 あなたの周りの先端技術」



理化学研究所知的財産戦略センター特別顧問の丸山瑛一氏が「薄膜半導体デバイスの世界・画像電子工学のイノベーションの担い手」と題して講演。エレクトロニクスについて、代表的なデバイス「真空管」や「トランジスタ」の技術史、また、自身の研究開発を交えてテレビカメラ等の撮像装置や画像表示装置の技術革新について述べた。

10/13

「情報デザインの時代 デジタルコンテンツ制作の最前線」



早稲田大学教授の坂井滋和氏（元NHKスベシャルCGディレクター）が、デジタルコンテンツ制作の最前線」と題して講演。情報デザインについて身近な「写真」を事例に、世界的なインターネットの普及や今は当たり前のようになっているデジタル技術が「モノ」と「情報」の分離・融合を容易にしたことにより、情報デザインがこれから重要になっていくことを解説し、自身の作品を交え最前線を紹介した。

10/18

「航空・宇宙への夢」



理化学研究所発生・再生科学総合研究センター 幹細胞研究グループ グループ・ディレクターの西川伸一氏が「先端医療と社会」と題して講演。先端医療の未来として、「ゲノムプロジェクト」「再生医療」「生物を統合的に理解するシステムズバイオロジー」についての現状と問題を解説し、将来への課題について述べた。

8/26

「船おもしろ話」



本学工学部船舶工学科貴島勝郎氏が「船の形と気まぐれ性格」と題して講演。船の種類と速度、船の操縦、船の形と操縦特性等の説明の後、将来の船の一例として人工知能化船（自動航行船舶）の開発に関する研究について述べ、ハイブリッド型船舶自動航行システムの実現性や課題等についても言及した。また、同学科池上国広氏、野瀬幹夫氏がそれぞれ研究開発について講演した。

9/1

「スポーツで豊かな長崎を創る」



(株)V・ファアレン長崎取締役 貴信氏が「スポーツビジネスの現状について触れた。また、スポーツビジネスの特徴とケーススタディとして、アルビレックス新潟などを例にとり説明した。V・ファアレン長崎の将来ビジョンについても述べ、子供からお年寄りまで県民参加型の総合型地域スポーツクラブの構想について述べた。

7/23

公開講演会の講演内容

本学のホームページから動画で視聴できます。講演者の都合で公開していない講演もあります。ご了承ください。次の URL よりご確認ください。視聴に必要なソフトは各自ご準備ください。

【URL】 <http://nias.jp/public/index.html>

トピックス

TOPICS

TOPICS 1

D・FLAG
オープンニング
セレモニー



独立行政法人中小企業基盤整備機構が長崎市に開設した新事

業の創出、育成に向けた支援施設「ながさき出島インキュベータ(D・FLAG)」のオープンニングセレモニーが10月29日(月)行われた。

この施設は、同機構が長崎3大学(長崎総合科学大学、長崎大学、長崎シーボルト大学)や長崎県、長崎市と連携し、「医工連携」をはじめとした幅広い業種を対象に、大学が持つシーズや研究成果と地域企業が持つ技術力を活用して新事業の創出・育成を図る施設で、産学連携の支援施設としては、福岡県及び熊本県に次ぎ、九州では3番目の開設となる。なお、3大学の連携型としては全国で初めて

TOPICS 2

林学長が大浦天主堂の設計図をパリで発見



林一馬学長が現存するキリスト教会の建築物として日本最古の大浦天主堂(長

崎市南山手町)の設計図をフランスのパリ外国宣教会で発見した。林学長は、同宣教会の古文書局でファイルを調査中、宣教会から日本に派遣された大浦天主堂を担当していたベルナール・ブチジャン神父の手紙にまじって、二つ折りにした平面図と側面図を発見。1864年の建築当時のもので、8月29日、福岡市で開催された日本建築学会で発表した。

TOPICS 3

山邊教授のグループが長崎県医工連携拠点形成支援事業に採択



長崎市出島のD・FLAGで、大学院新技術創成研究所所長の山邊時雄教授を

中心とした産学連携グループが世界レベルでの医療技術の開発に取り組み。平成19年度「長崎県医工連携拠点形成支援事業」に採択された「先端医療・創薬の開発に向けた細胞・生体機能等コミュニケーション」研究拠点事業で、県が活動経費の一部を支援するもの。県は将来の成長が見込める「ナガサキ型新産業」と位置づけ、医療と工学分野の連携による産業創出に取り組んでいる。

TOPICS 4

中尾准教授が環境にやさしいソーラーボートの開発



中尾浩一工学部船舶工学科准教授と山中孝友客員教授がハウステ

ンボス(佐世保市)や西日本流体力学研究所と産学連携で太陽光発電と蓄電池を併用した環境対応型の小型ボート(電動レジャーボート、ボートは3メートルの2人乗り)を開発中。今年、長崎県産業振興財団の佐世保事務所からの委託研究として開発を進めている。

TOPICS 5

石橋教授が排水処理装置の開発



人間環境学部環境文化学科の石橋康弘教授は、長崎県諫早市の企業、株式会社

真人(山本芳弘社長)と共同で、凝集剤を使った排水処理装置の開発を始め、11月6日付けの日報工業新聞でも紹介された。同事業は長崎県の「新産業ビジネス化支援事業」の認定を受け2008年以降の実用化を目指している。

TOPICS 6

中国産野菜の安全へ技術開発面で協力



人間環境学部石橋康弘教授と西村安代准教授が中国広東省陽光市に長崎県内

企業などが工業団地を造成する「陽光プロジェクト」において安心で安全な中国産野菜作りを目指し技術開発面で協力する。中国産野菜で基準値を超える残留農薬検出が問題になったことを受け、本学シーサイドキャンパス内のハウスで現地気候や水を想定した環境にし、無農薬に近い水耕栽培や培地栽培を実施。その研究成果を中国本土の工業団地に応用する。

TOPICS 7

繁宮講師と研究室の学生が無農薬米を育成



人間環境学部石橋康弘教授と繁宮悠介講師と研究室の学生が今年、無農薬米を育成する実験を行い、10月25日に大

敬訪問し、収穫された新米を携え、取り組みの現状の報告を行った。繁宮講師は、里山の保全と大学と地域の活性化のため「棚田オーナー制度」のオーナーとして参加し、3年目となる今年、布マルチ栽培で無農薬米の育成にチャレンジした。

TOPICS 8

藤川教授が講演



11月29日(木)日本風力エネルギー協会(財)日本科学技術振興財団主催の「風力エネルギー利用シンポジウム」が開

催され、工学部機械工学科の藤川卓爾教授が「直線翼垂直軸型風車の運転実績について」と題して本学シーサイドキャンパス校舎屋上に設置された小型風車の2年半にわたる運転実績を報告した。

TOPICS 9

長崎工業会で現場力向上塾で平坂教授が講演



長崎市を中心とした中小製造業者などでつくる長崎工業会が本年度より取り組みを開始した

「現場力向上塾」の第1回講義が8月23日(木)開催され、情報学部経営情報学科の平坂敏夫教授が講師を務めた。ものづくり現場を支える人材の育成を目指す目的で講義と現場演習を実施するもので、平坂教授がティーフコディネーターとして今後も指導にあたる。

TOPICS

10 学生が地域活動



10月27日(土)、宿町公民館で「学生さんのまちおこし・地域づくり」事業に関連した活動で宿町自治会の方々と交流会及び携帯電話講習会を開催。

宿町自治会から住民10名と人間環境学部の学生16名が参加。午前中は電話講習会を行ない、住民一人に学生が一人が付き、ドコモの講師の方と一緒に携帯電話の便利などところや気を付けなければならぬこと(マナー)を教えました。

TOPICS

11 ユニフォームで古紙回収「+エコ運動」のモデル



人間環境学部環境文化学科の学生でつくる環境活動グループ「ISOの家(いそのけ)」の事業「リサイクル資源回収活動」において、活動の際のユニフォームがお披露目された。

活動は宿町自治会と協働で実施している古紙回収において高齢者の古紙運搬を手伝い回収率の向上、環境問題への意識向上、地域コミュニケーション環境づくりを展開。また、9月7日には長崎県「+」(プラス)エコ運動」のモデル事業にも採択された。

TOPICS

12 「ISOの家」の事業長崎県から助成



7月23日(月)、長崎県庁内の県政記者室で長崎県が助成する「学生さんのまちおこし・地域づくり事業」の活動について、助成先の発表が

長崎県地域政策課長より記者発表された。人間環境学部の学生で作る「ISOの家」(代表：同学部環境文化学科3年高山幸樹君)が事業テーマ「リサイクル資源回収活動」で採択を受け、記者発表時にリーダーの中村祥子さん(4年)が事業活動について説明した。

TOPICS

13 清掃活動で地域文化の交流



10月28日(日)にグリーンヒルキャンパスから一望できる住吉神社で祭礼が行われた。日頃のお礼も込め、本

学学生が神社の清掃活動を行い、祭礼の後、日見地区の重鎮の方々と歓談し、地域文化交流を行った。地域との連携を目指す本学にとって文化体験交流は大切であり、今回、地域の方々から貴重な意見を賜り、参加した学生も地域との交流が大学発展にいかんにか大事が感じた様子。

TOPICS

14 九州力又1選手権2位



10月26日(土)、大分県豊後高田市の真玉B&G海洋センター力又1競技場

で開催された、九州力又1選手権大会において、人間環境学部2年の板見康昭君(長崎水産高校(現長崎鶴洋高校)出身)が成年男子力又1シングルの部で見事第2位に入った。板見君は今秋、秋田県で開催された第62回国民体育大会「秋田わか杉国体」にも長崎県代表として出場した。

TOPICS

15 本学への訪問者



本学を訪れ、体験学習や研究施設見学などが行われた。このことが大学で学ぶことや本学における教育・研究活動を知る機会になるものと考えている。

長崎県立長崎北陽台高校

12月15日(土)、長崎北陽台高校理数科2年生64名が体験学習を行った。本学が予め用意した7つのプログラムに生徒たちは分かれ、約2時間、大学における講義や研究に触れた。

長崎県立長崎南高校



11月16日(金)、長崎南高校の1年生10名が職場訪問で本学を訪れた。生徒が希望する職業の中身や、予めいただいた質問に応える形で、担当した教員が説明した。

小城市区長連絡協議会



11月7日(水)、小城市区長連絡協議会の役員12名と小城市職員3名が本学人間環境学部の視察に訪れた。人間環境学部の坂井正康教授と環境文化学科4年の中村祥子さんが活動内容を紹介した。

長野県立阿智高校



10月17日(水)、阿智高校の2年生29名と引率の先生1名が、修学旅行の体験学習で本学を訪問。知能情報学科の池末純一教授の指導で「Webコンテンツ製作体験」を楽しんだ。

長崎県立島原高校



8月7日(8日の2日間)、島原高校理数科と原高連携講座)を本学で開催。1年生約40名が、本学の最先端技術に関する8つの実験・実習型講座を受講して体感した。

長崎県立諫早高校



7月31日(火)、諫早高校の1年生40名と引率教員2名が本学で体験学習を行った。生徒は5グループに分かれて本学のプログラムを体験した。

長崎県立島原翔南高校



7月18日(水)、島原翔南高校の1年生25名と引率教員2名が上級学校における学習内容を生徒に理解させ、施設を見学するとともに進路選択の参考とする本学の学習設備を見学した。

長崎県立長崎明誠高校



7月11日(水)、長崎明誠高校の進学を希望する1年生42名と引率教員2名が本学を訪問。説明や施設見学によって進路選択の視野を広げ、学習に取組む態度を養う機会とした。

長崎県立長崎鶴洋高校



7月11日(水)、長崎鶴洋高校の進学を希望する1年生43名と引率教員2名が本学を訪問。大学からの説明や施設見学を通して高校と大学の違いや学生生活の様子を知る機会とした。

TOPICS 16

「居留地シンポジウムで
パークガフ二教授講演



9月29日(土)、長崎居留地まつりの一環として活水女子大学で「居留地シンポジウム」が開催。第2部「温故知新」長崎・居留地からのおいて、霧笛の長崎・居留地」と題して講演し、田上富久長崎市長らとのパネルディスカッションにも出演した。

前日の28日、パークガフ二教授は、「ウオーカー家の足跡調査にもとづく長崎居留地の通史的な研究」の題目で博士(学術)の学位(長崎総合科学大学)を取得した。

TOPICS 17

「脇山講師が
大村高校で講演



9月14日(金)、工学部船舶工学科の脇山祐介講師が長崎県立大村高等学校の定期制の生徒を対象とした「なるには講演会」の講師を担当し、「船舶工学と私の夢」と題して講演した。

これは、進路学習の一環として将来の進路のことをより深く知り、今後の生徒自らの学習に資することを目的に、高校側より依頼があったもの。

TOPICS 18

「科学の祭典」へ出展



10月20日(土)、21日(日)の2日間、「青少年のための科学の祭典」2007年第11回長崎大会が長崎市科学館において開催され、知能情報工学科の安田元一教授と大学院電子情報学専攻1年塩塚信人君ら研究室の学生が参加し、ブース「たくさんの知能ロボットを動かそう」を出展した。今年は本学を含め45のブースが設置され、体験・体感し、青少年の科学に対する興味・関心を高める機会となった。

TOPICS 19

「赤とんぼの
街づくり運動」
写真大会へ出展



9月22日(土)、水辺の森公園で「赤とんぼの街づくり運動」遊べる！学べる！写真大会が開催。機械工学科の藤川卓爾教授と研究室の学生が「自転車にエコ発電」などを出展。自転車を漕いで発電し、ポータブルミシンで古タオルを利用して雑巾を縫う「自転車でエコ発電」のほか、シャボン玉を作る機械を自転車の発電機で動かす企画も出展し、子供達に大人気だった。

TOPICS 24

「学園祭 造大祭」開催

11月10日(土)、11日(日)の両日、第44回造大祭を開催。テーマ「Across The Line」境界線を越えて」に全ての人が自由に参加でき楽しめる学園祭にしよつという願いが込められている。

TOPICS 20

「ながさき建設技術
フェア2007」
に出展



9月13日(木)、14日(金)に長崎県立総合体育館で「ながさき建設技術フェア2007」が開催され、工学部建築学科が出展し、本日は41の団体が出展し、本学は研究室紹介や既往研究・受託研究などを紹介するパネル展示(コーポラティブハウス、古民家修復、コンサートホールの音響デザイン、町づくり・都市計画等に係わる各種受託事業)や建築模型などを展示した。

TOPICS 21

「ロボット製作体験



8月28日(火)、小中学生向け夏休み体験学習「ロボット製作体験」を開催し、小中学生とその保護者がロボット製作に取り組んだ。当日は15名の子ども達とその保護者が参加し、情報学部知能情報工学科の安田元一教授と学生の指導のもとで、カブトムシ、クワガタ、ねずみ型の3種類のロボットを組み立て、完成後は目を輝かせながら操縦し、他の子どもと対戦するなど楽しんでいった。

TOPICS 22

「エコイベントに参加



テレビ長崎が取り組む地球温暖化防止の長崎県民運動「チーム長崎」のキャンペーンに、工学部機械工学科の藤川卓爾教授の研究室が参加した。

8月11日(土)は「チーム長崎エコイベント」、8月19日(日)は「チーム長崎 夏のうちエコイベント」に自転車漕いで発電し、ポータブルミシンで雑巾を縫う「自転車こいでぞうきん作ろう」を実施した。

TOPICS 23

「ソーラーボートで
牧島一周



11月22日(木)、工学部船舶工学科の4年生が製作したソーラーボートで長崎ペンギン水族館横のスロープを出発し、橘湾内の牧島を周回して戻ると約10kmのコースをトータルもなく完走した。

ソーラーボートは大田金之君と末永修一君の2名が同学科の林田滋教授の指導の下で製作を行った。

二人乗りで全長3.2m、船首側と船尾側にソーラーパネルを取り付けられている。約2時間航行した。



全国高校生アイデアコンテスト

第10回 全国高校生設計アイデアコンテスト

大学のキャンパス入口付近に、『地域住民と交流する場所』の設計を募集。選考結果は次の通りです。

最優秀賞

古賀由佳理さん

大分県立日田林工高校2年

優秀賞

村瀬 照寛さん

長崎県立長崎工業高校3年

優秀賞

東川 裕紀さん

三重県立四日市工業高校3年

第1回 全国高校生エコ活動コンテスト

清掃活動やリサイクル運動、水質調査や生物調査など、高校生の個人、授業、部活動、あるいは生徒会活動として環境問題に取り組んでいる活動内容や研究成果を募集。選考結果は次の通りです。

優秀賞

鹿児島県立末吉高校
生物生産科 ヒーバー隊

有川晃弘さん、今西太一さん
岩井大輔さん、新保洋平さん
中野勝師さん、森 拓也さん

入賞

益留涼輔さん、中村直樹さん
竹田 亘さん

大分県立大分豊府高校
科学部（生物班）
渡邊正輝さん、藤田直樹さん

第3回

全国高校生デジタルメディアコンテスト

デジタルアート部門

「未来」テーマに作品を募集。選考結果は次の通りです。



最優秀賞 阿部絵里香さん

福島県立郡山商業高校
国際経済科 3年



優秀賞 箱崎 智哉さん

福島県立いわき総合高校
総合学科 2年



優秀賞 渡辺 ショーン翔さん

宮崎県立延岡工業高校
情報技術科 2年

ホームページ部門

自分の学校や住んでいる地域を魅力的に紹介するホームページを募集。選考結果は次の通りです。



最優秀賞 中澤 綾さん 白川いずみさん

山梨県立甲府工業高校
建築科 3年



優秀賞 鶴 杏奈さん 中村 友紀さん

大分県立中津商業高校
情報管理科 3年



優秀賞 原 いづみさん 山本 愛実さん

宮崎県立佐土原高校
通信工学科 2年

選考結果の詳細、講評は次の URL よりご参照ください。

第10回 全国高校生設計アイデアコンテスト

<http://www.arch.nias.ac.jp/home/compe/compe2007/compe2007-kou.html>

第3回 全国高校生デジタルメディアコンテスト

<http://www.it.nias.ac.jp/news/071106.html>

第1回 全国高校生エコ活動コンテスト

<http://www.he.nias.ac.jp/news>

願書受付中!!!

願書および過去の入学試験問題集の請求方法について

下段の「問合せ先」へお電話
 いただくか、ホームページから
 の申込ができます。ご都合の良
 い手段でお申込ください。
 なお、入試の日程は次の通り
 です。

2008年度学生募集要項

学部〔工学部・情報学部・人間環境学部〕

| 学部 | 学科〔コース〕 |
|---------|----------------------------|
| 工 学 部 | 船舶工学科〔造船技術コース、海洋フロンティアコース〕 |
| | 機械工学科 |
| | 電気電子工学科〔電気電子工学科、医療電子コース〕 |
| 情 報 学 部 | 建築学科〔建築学科、住居学コース（女子のみ）〕 |
| | 知能情報学科 |
| 人間環境学部 | 経営情報学科 |
| | 環境文化学科 |

| | 一般入試 | | センター試験利用入試 | |
|------|--|-----------------------------------|--|-----------------|
| | 前期 | 後期 | 前期 | 後期 |
| 出願期間 | 1月8日 ～2月1日 | 2月20日 ～3月4日 | 1月8日 ～2月8日 | 2月28日 ～3月14日 |
| 試験日 | 2月7日 2月8日 | 3月9日 | - | - |
| 科目等 | 2科目 1. 数学①(数Ⅰ+数Ⅱ+数A+数B) 2. 数学②(数Ⅰ+数A) 3. 国語(国語総合(古文、漢文を除く)) 4. 理科(物理Ⅰ+Ⅱ、化学Ⅰ+Ⅱ、生物Ⅰ+Ⅱ) 5. 外国語(英Ⅰ+英Ⅱ+リーディング) | | 3科目 1. 外国語(英、独、仏、中、韓) 英語のみリスニングテストを含む 2. 地理歴史(世A、世B、日A、日B、地理A、 地理B) 3. 数学①(数Ⅰ、数Ⅱ・数A) 4. 数学②(数Ⅱ、数Ⅲ・数B、工、情報) 5. 国語(国語) 6. 理科①(理科総合B、生Ⅰ) 7. 理科②(理科総合A、化学Ⅰ) 8. 理科③(物Ⅰ、地学Ⅰ) 9. 公民(現社、倫、政経) | |
| | 学部・学科で入試科目や出題範囲が異なります。 詳細は、お問合せいただくか、大学のホームページでご確認ください。 | | | |
| 会場 | 長崎、佐世保、那覇、 鹿兒島、宮崎、大分、 熊本、佐賀、福岡、松山、 広島、岡山、大阪、 名古屋、東京 | 長崎、鹿兒島、福岡、 松山、広島、大阪、 名古屋、東京 | | |
| 受験料 | 28,000円 | | 13,000円 | |
| 合格発表 | 2月19日 | 3月14日 | 2月19日 | 3月21日 |

問合せ・出願先

長崎総合科学大学入試広報課
 〒851-0193
 長崎市網場町536
 TEL 0120-801-253

AO入試 後期

| | |
|------|-------------------------------|
| 出願期間 | 1月8日～3月14日 |
| 試験日 | 随時 |
| 科目等 | 面接(個別) 志望理由書(出願時提出:600字～800字) |
| 会場 | 原則として本学 |
| 受験料 | 30,000円 |
| 合格発表 | 2月19日、3月11日、3月21日 |

『親の品格』を身につめられる
 思いで読んだ。
 その中に「挨拶は相手を認め、
 尊重し、友好関係を結びたいと
 という表明」と書いてある。
 挨拶するのが「恥ずかしい」や
 「どうせ・・・」と蔑ろにして
 いては何も変わらない。
 挨拶を元気な声で交し合い、活
 気あるキャンパスになるように
 先ずは私たちが。(I)

受験シーズン到来!1月に実施
 された大学入試センター試験。
 本学会場にも500名の受験生
 が来場。会場内は静かな熱気に
 包まれました。
 受験生の皆様、本当にお疲れ様
 でした。(T)

編集後記

表紙の写真
 長崎県美術館か
 らの依頼で同館の
 模型を製作。模型
 は実物の約80分の
 1の大きさ。約5
 ケ月をかけて製作
 した。
 製作は本学工学
 部建築学科の3年
 生、田島俊郎君、
 川口弘晃君、囀 大嗣君、
 高屋直土君の4名が担当
 した。来館者の案内に活
 用される。
 11月25日長崎新聞で紹介
 された。



このQRコードで
 本学携帯電話ホームページにアクセスできます